

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽教育専攻)

ディプロマポリシー	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S410000	新井 恵美	和声Ⅰ	作曲の基礎となる和声について、三和音基本位置の配置と連結、第1転回位置、第2転回位置、Vの7の和音を使用した課題の実施を行う。	中学校教諭免許取得に必須の科目。教材の作・編曲を行う際の基礎を修得する。	中学校教諭に必要な作・編曲能力の基礎的な知識・技能を修得する。	3	2	1	3	1
S410005	新井 恵美	和声Ⅱ	作曲の基礎となる和声について、和声Ⅰの学習内容に加えて、Vの9の和音、Ⅱの7の和音、ドッペルドミナントの和音を使用した課題の実施を行う。	中学校教諭免許取得に必須の科目。教材の作・編曲を行う際の基礎を修得する。	中学校教諭に必要な作・編曲能力の基礎的な知識・技能を修得する。	3	2	1	3	1
S410010	木下 大輔	和声Ⅲ	和声実技(その3)	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために必要な、音楽理論(エクリチュール)を学習する。修得目標に到達するために、和声の実技を修練する。	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために必要な、音楽理論(エクリチュール)の能力を修得する。	3	2	2	3	2
S410015	木下 大輔	作曲Ⅰ	作曲実技・編曲実技(その1)	中学校・高等学校音楽2種免許状教員たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)を学習する。修得目標に到達するために、作曲・編曲の実技を行う。	中学校・高等学校音楽2種免許状教員たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)を修得する。	3	2	2	3	2
S410020	木下 大輔	作曲Ⅱ	作曲実技・編曲実技(その2)	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)を学習する。修得目標に到達するために、作曲・編曲の実技を行う。	中学校・高等学校音楽1種免許状教員たるために必要な、作曲法(編曲法を含む)を修得する。	3	2	2	3	2
S405010 S410025	木下 大輔	音楽史A	音楽通史(西洋音楽史を中心に)	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽史(西洋音楽史を中心に)を学習する。修得目標に到達するために、音楽通史を講義・演習する。	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽史(西洋音楽史を中心に)の能力を修得する。	3	2	2	2	2
S401010 S410030	非常勤講師	音楽史B	音楽通史(音楽民族学を含む)	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽史(日本の伝統音楽および諸民族の音楽を含む)を学習する。修得目標に到達するために、音楽通史(音楽民族学を含む)を講義・演習する。	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽史(日本の伝統音楽および諸民族の音楽を含む)の能力を修得する。	3	2	2	2	2
S410035	木下 大輔	音楽分析	楽曲分析実践	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽分析を学習する。修得目標に到達するために、楽曲分析を実践する。	中学校・高等学校音楽教員たるために必要な、音楽分析の能力を修得する。	3	2	2	3	2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽教育専攻)

ディプロマポリシー	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S40005 S410040	高島 章悟	ソルフェージュ	初見視唱、初見ピアノ演奏、リズム、聴音、鍵盤和声等の課題を随時実践する。	学部専門教育科目の教育展開科目群・中学校教科「音楽」の教科科目の一つ。音楽指導に必須となる教員の音楽基礎能力を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> 初めて見た楽譜を準備なしで歌うことができる。(初見視唱) 初めて見た楽譜を準備なしでピアノで演奏することができる。(初見視奏) 楽譜に書かれたリズムを正確に再現できる。 <ul style="list-style-type: none"> 演奏された音を聴き取り楽譜に記すことができる。 ピアノを使って和声の課題を実施することができる。 	3	2	1	3	2
S403000 S410045	高島 章悟	指揮法	この授業では、指揮法の基本と、音楽作りの関係を実践的に学び、合唱、合奏グループを指導する際に必要な技術習得を内容としている。	この科目は中学校教科「音楽」に係る科目で、音楽の教員として学ぶべき必須のものとして免許法で指定されている必修科目である。	音楽科教育の現場において、音楽科教員が、合唱・吹奏楽・オーケストラを直接指導することは、日常的に当たり前になっている。指揮は、腕・指揮棒を振る(だけ)という、一見単純・簡単な行為に見えるが、そのメカニズムは意外と複雑である。指揮者として音楽を上げるという実践の中では、演奏者と呼吸を合わせることや、人間的にコミュニケーションをとることと同等に、指揮のテクニックが必要になる。	3	2	1	2	2
S410050	小原 伸一	声楽 I	声楽に必要な演奏基礎技能を習得するため、グループレッスンを中心とした実技指導を行う。レッスンでは、各自が自分の声の特徴を把握し、改善すべき課題を認識することをふまえ、声楽の技能を構成する姿勢・呼吸・発音・共鳴などを含めた発声全体について理解を深めながら、具体的な楽曲を通して基礎技能の能力を高める。基礎技能の一つとして、各母音の自然な発声に重点を置いて響きのある安定した発声方法の獲得を目指す。	学部専門教育科目の教育展開科目群・中学校教科「音楽」の教科科目の一つ。歌唱指導をはじめ音楽科教員に必要とされる重要な資質・能力の基礎を習得するための音楽実技科目。	<ul style="list-style-type: none"> 美しい声、理想的な発声に対するイメージをつかむ事ができる。 自己の声楽発声の状況(特徴)を認識することができ、より良い発声とするための課題を明確にすることができる。 発声上の課題に継続して取り組み、長期的な視点から自己の発声技術の向上を目指して取り組むことができる 練習の成果を、具体的な楽曲の中で生かして演奏することができる。 音楽科の歌唱指導をふまえ、声楽の能力を修得し高める意義を理解している。 	3	2	1	3	2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽教育専攻)

ディプロマポリシー	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S409015 S410055	小原 伸一	声楽Ⅱ	声楽Ⅰの学習内容を継続・発展して行う。声楽Ⅰと同様に、演奏基礎技能を習得するため、グループレッスンを中心とした実技指導を行う。レッスンでは、各自が自分の声の特徴を把握し、改善すべき課題を認識することをふまえ、声楽の技能を構成する姿勢・呼吸・発音・共鳴などを含めた発声全体について理解を深めながら、具体的な楽曲を通して基礎技能の能力をさらに高める。また、声楽演奏に関する基本について実技指導を行う。	学部専門教育科目の教育展開科目群・中学校教科「音楽」の教科科目の一つ。歌唱指導をはじめ音楽科教員に必要とされる重要な資質・能力の基礎を習得するための音楽実技科目。	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい声、理想的な発声に対するイメージをつかむ事ができる。 ・自己の声楽発声の状況(特徴)を認識することができ、より良い発声とするための課題を明確にすることができる。 ・発声上の課題に継続して取り組み、長期的な視点から自己の発声技術の向上を目指して取り組むことができる ・練習の成果を、具体的な楽曲の中で生かして演奏することができる。 ・音楽科の歌唱指導をふまえ、声楽の能力を修得し高める意義を理解している。 	3	2	1	3	2
S405016 S410060	石野 健二	声楽Ⅲ	音楽指導に必要となる声楽の基礎技能を身につけ、発声法・歌唱表現の能力を高める。各自が自分自身の声の特徴を知り、各母音等の発声方法を探りながら安定した発声技術を追求する。	この科目は中学校教科「音楽」に係る科目で、声楽Ⅰ・Ⅱの学習を基礎にして、さらに声楽を多面的に、実践的に深める科目である。	自己の声楽発声の現状を認識し、より良い発声を求めて訓練を重ね、歌唱能力を高めることができる。また、その能力を生かして演奏(発表)をすることができる。	3	1	2	1	2
S410065	石野 健二	声楽Ⅳ	姿勢・呼吸・発音・共鳴などを含めた発声全体について理解を深めながら学習を深める。個々の技術的な課題と取り組みながら、楽曲の演奏を通じて歌唱表現についても学び演奏能力を高める。	この科目は中学校教科「音楽」に係る科目で、声楽Ⅲの学習の上に、声楽をさらに発展させ、特に歌唱表現を深めることに続けてゆくものである。	自己の声楽発声の現状を認識し、より良い発声を求めて訓練を重ね、歌唱能力を高めることができる。また、その能力を生かして演奏(発表)をすることができる。	3	1	2	1	2
S406009	石野 健二	合唱	合唱の基礎、また、合唱指導法の基礎を日本の現代の合唱作品、ルネサンス・ポリフォニー等を通して学んでゆきます。合唱の指導法においては、発声理論をもとにした各パートの音づくり、和音の作り方、旋律処理、旋律と和音の処理、楽曲の音楽構成、詩と音楽の融合のさせ方等、全体をコントロールすることが重要であるが、それらを実践的に学んでゆく。	この科目は中学校教科「音楽」に係る科目で、音楽の教員として声楽として学ぶべき必須のものとして免許法で指定されている必修科目である。	戦後の音楽科教育では一貫して、西洋のクラシック音楽で一般的に行われている発声が推奨されている。児童、生徒にとってこの発声をもっと身近で行われているのが合唱である。合唱を作り上げてゆく際の教育的効果、また、出来上がった合唱を発表することの意義などを考えると、音楽科教育の中で合唱は非常に重要な位置にある。この授業では合唱のおもしろさ、そして合唱をどのように作り上げるのかといった合唱指導の基礎を実践的に学んでゆく。	3	2	2	1	3
S410075	石田 修一	伴奏法	中学校の教員に必要なピアノの技能の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。	中学校・高等学校の「音楽」免許を取得するための必修科目で、音楽教育専攻の1分野である(器楽)の科目として意義をもつ。	中学校音楽科の教員としての実践的能力や教材研究の基礎能力を身に付けるため、器楽実技の実践を通して演奏を学んでいく。ここで学ぶ基礎は将来の教員としての指導の土台となるものである。音楽を表現する上で、また音楽を指導する上での基礎的な事柄をピアノを通して身に付ける。	3	2	2	1	1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽教育専攻)

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。</p> <p>(B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S410080	非常勤講師	和楽器	中学校の教員に必要な楽器の学習においての和楽器の技能の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。	中学校・高等学校の「音楽」免許を取得するための必修科目で、音楽教育専攻の1分野である(器楽)の科目として意義をもつ。	中学校音楽科の教員としての実践的能力や教材研究の基礎能力を身に付けるため、器楽実技の実践を通して演奏を学んでいく。ここで学ぶ基礎は将来の教員としての指導の土台となるものである。音楽を表現する上で、また音楽を指導する上での基礎的な事柄を箏、篠笛等の実技を通して身に付ける。	3	2	2	1	1
S410085	高島 章悟	器楽	中学校の教員に必要なリコーダー、ギターの技能の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。	中学校・高等学校の「音楽」免許を取得するための必修科目で、音楽教育専攻の1分野である(器楽)の科目として意義をもつ。	中学校音楽科の教員としての実践的能力や教材研究の基礎能力を身に付けるため、器楽実技の実践を通して演奏を学んでいく。ここで学ぶ基礎は将来の教員としての指導の土台となるものである。音楽を表現する上で、また音楽を指導する上での基礎的な事柄をリコーダー、ギターを通して身に付ける。	3	2	2	1	1
S410090	高島 章悟	合奏Ⅰ	合奏の基礎を実技を通して学ぶ。	中学校教諭1種免許状(音楽)、高等学校教諭1種免許状(音楽)取得に必要な科目。	合奏における基本的な事柄を、様々な形態のアンサンブルを通じて学ぶ。	3	3	2	1	1
S410095	高島 章悟	合奏Ⅱ	合奏Ⅰを踏まえた上で、より実践的な合奏を体得する。	中学校教諭1種免許状(音楽)、高等学校教諭1種免許状(音楽)取得に必要な科目。	合奏における基本的な事柄を、様々な形態のアンサンブルを通じて学ぶ。	3	3	2	1	1
S412114	小原 伸一、新井 恵美	中等音楽科教育法Ⅰ	中等音楽科の教科目標や内容、学習指導計画等について講義を行う。また、実地指導講師による音楽指導の実践例を通して、中学校における具体的な教材やその指導方法について学ぶ。さらに、上記の学習を基盤として学習指導案を作成し、中等音楽科教育法Ⅱにおける模擬授業実施に向けた準備を進める。	中学校教科「音楽」に係る科目の中の「教科教育法」開設科目。	<ul style="list-style-type: none"> ・中等音楽科の教科内容等について、学習指導要領を基に全体の概要を理解している。 ・学習指導計画(学習指導案)を作成するために必要な基本事項を理解している。 ・教科目標や指導内容、評価等をふまえて音楽授業を立案し、学習指導案を作成することができる。 	3	2	3	3	3

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽教育専攻)

ディプロマポリシー	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S412122	小原 伸一、新井 恵美	中等音楽科教育法Ⅱ	中等音楽科教育法Ⅰで学んだ教科理解を基盤として、音楽指導の実践に必要な知識や技能を習得する。 授業では必ず模擬授業を1回担当する。模擬授業の学習指導案作成及びその推敲を含めた準備作業は個別に事前指導によって行う。模擬授業担当を通して、音楽授業の計画から実施・検証までの流れを体験する。 授業の計画から実施・検証を通して音楽指導に関わる様々な課題に取り組み、創意工夫によってより良い授業を実践する方法について考える。教育実習もふまえて、実地講師による実践指導が含まれている。	中学校教科「音楽」に係る科目の中の「教科教育法」開設科目。 中等音楽科教育法Ⅰで学んだことを基盤に教育実習での授業実践も視野に入れながら、模擬授業の担当を通して中等音楽科の実践に関わる様々な知識・技能を理解し身につける科目。	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導案の作成手順に従い、音楽授業の学習計画を立案することができる。 自分で計画した学習指導案を実行するために必要な教材研究等の準備を行うことができる。 自分が作成した学習指導計画に基づいて音楽の模擬授業を実施することができる。 模擬授業を振り返り、より良い授業を実現するための工夫を提案することができる。 	3	3	3	3	3
S413005	新井 恵美	中等音楽科教育法Ⅲ	中学校音楽科の教員として必要な、コードネームによる弾きうたい、鑑賞教材研究、音楽科教育研究の動向について演習を行う。	中学校教諭1 通免許(音楽)取得に必須の科目。中学校の音楽科教員として必要な、その場に応じた伴奏形の使用、鑑賞教材の開発などの知識・技能を修得する。また、音楽科教育の研究動向を探ることで、社会の変化に対応した実践の方法を修得できるようにする。	中学校の音楽科教員として必要な資質を修得することと、今日の音楽科教育の持つ課題について知り、追求できるようにする。	3	3	3	3	2
S414001	小原伸一	中等音楽科教育法Ⅳ	中等音楽科の教員に必要な様々な資質や能力について理解し、その自己評価をふまえさらに伸ばしたい資質や能力(実践力)を明らかにする。また、教材研究や新たな教材の開発、授業の構成力などを高めるために、各自の専門能力を音楽授業で有効に活用する柔らかな発想力・思考力を育成する(理論的思考力)。その上で、獲得した資質や能力を音楽指導の実践に転換する方法論を探求する(理論と実践の融合)。	中学校教科「音楽」に係る科目の中の「教科教育法」開設科目。 音楽担当教員の資質・能力に対する理解を深め、客観的な自己評価から更に伸ばしたい自分の資質・能力を見極め、教職を目指してそれらを高めようとする自己教育力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の教員に必要な資質・能力について理解し、それらを説明することができる。 音楽教育の実践を行うための理論的な背景を考える力を身につけ、両者を関係づける力を獲得する。 上記の二点をふまえ、具体的な実践例を考案し提示することができる。 	3	3	3	3	3
S415031	新井 恵美、木下 大輔	音楽アウトリーチ研究A	社会への音楽普及プロジェクト(音楽によるアウトリーチ)の企画と実施を行う。	音楽教育専攻の専攻専門科目の1つ。学校や施設へのアウトリーチ活動により、必要な企画力、実践力を修得し、地域貢献を図る。	社会への音楽普及プロジェクト(音楽によるアウトリーチ)の企画と実施を行うことにより、音楽と教育による地域貢献を図ることができるようにする。	3	3	3	3	3
S415032	新井 恵美、木下 大輔	音楽アウトリーチ研究B	社会への音楽普及プロジェクト(音楽によるアウトリーチ)の企画と実施を行う。	音楽教育専攻の専攻専門科目の1つ。学校や施設へのアウトリーチ活動により、必要な企画力、実践力を修得し、地域貢献を図る。	社会への音楽普及プロジェクト(音楽によるアウトリーチ)の企画と実施を行うことにより、音楽と教育による地域貢献を図ることができるようにする。	3	3	3	3	3

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽教育専攻)

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S430010	木下 大輔	和声Ⅳ	和声実技(その4)	中学校・高等学校のより優秀な音楽教員たるために必要な、音楽理論(エクリチュール)を学習する。修得目標に到達するために、和声の実技を修練する。	中学校・高等学校のより優秀な音楽教員たるために足る、音楽理論(エクリチュール)の能力を修得する。	3	2	2	3	2
S419118	非常勤講師	ヴァイオリン	ヴァイオリンの奏法を学ぶ。	音楽教育専攻専門科目で、弦楽器の基礎的技能を習得する。	・ヴァイオリン演奏の実技の習得 ・楽器に対する知識、手入れなどについても学ぶ。	3	2	1	1	1
S417212	非常勤講師	木管楽器	楽器の取り扱い、音の出し方、指使い等、基本を一通り学び、簡単な曲を演奏する。木管楽器指導の際に役に立つポイントを知る。	音楽教育専攻専門科目で、金管楽器の基礎的技能を習得する。	・木管楽器演奏の実技の習得 ・楽器に対する知識、手入れなどについても学ぶ。	3	2	1	1	1
S418135	高島 章悟	金管楽器	金管楽器の取り扱い、音の出し方、指使い等、基本を一通り学び、簡単な曲を演奏する。金管楽器指導の際に役に立つポイントを知る。	音楽教育専攻専門科目で、金管楽器の基礎的技能を習得する。	・金管楽器演奏の実技の習得 ・楽器に対する知識、手入れなどについても学ぶ。	3	2	1	1	1
S419500	非常勤講師	打楽器	打楽器の実技実習	音楽教育専攻専門科目で、打楽器の基礎的技能を習得する。	打楽器の基本的な奏法の習得、及び、数ある打楽器の構造・歴史・用法についての、認識を深め、効果的な使い方や音楽的な表現を探究する。	3	2	1	1	1
S440000	小原 伸一	音楽研究セミナーAⅠ	音楽教育の研究内容与方法について理解し、多様な事柄の中から研究テーマを設定して研究成果としてまとめ、内容に合った工夫を考えて発表を行う。	音楽教育専攻専門科目の開講科目。音楽と教育を結ぶ様々な視点から、教科の専門をふまえ、音楽教育のあらゆる課題を対象にして理論的に思考する力を修得する。	・音楽教育研究の内容与方法について理解している。 ・研究テーマを設定し、適切な研究方法を考え、研究計画を立案し、目的に適った研究の成果を追求することができる。 ・研究過程やその成果について、資料及び提示方法等を工夫して発表することができる。	3	3	2	3	2
S440000	新井 恵美	音楽研究セミナーAⅠ	受講者それぞれが設定したテーマに沿って研究を行う。	音楽教育専攻の専攻専門科目の1つ。受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行う。	受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行うことができるようにする。	3	3	2	3	2
S440005	小原伸一	音楽研究セミナーAⅡ	音楽教育の研究内容与方法について理解し、多様な事柄の中から研究テーマを設定して研究成果としてまとめ、内容に合った工夫を考えて発表を行う。	音楽教育専攻専門科目の開講科目。音楽と教育を結ぶ様々な視点から、教科の専門をふまえ、音楽教育のあらゆる課題を対象にして理論的に思考する力を修得する。	・音楽教育研究の内容与方法について理解している。 ・研究テーマを設定し、適切な研究方法を考え、研究計画を立案し、目的に適った研究の成果を追求することができる。 ・研究過程やその成果について、資料及び提示方法等を工夫して発表することができる。	3	3	2	3	2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽教育専攻)

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。</p> <p>(B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。</p> <p>(C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。</p> <p>(D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。</p> <p>(E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S440005	新井 恵美	音楽研究セミナーAⅡ	受講者それぞれが設定したテーマに沿って研究を行う。	音楽教育専攻の専攻専門科目の1つ。受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行う。	受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行うことができるようにする。	3	3	2	3	2
S440010	木下 大輔	音楽研究セミナーBⅠ	卒業作品・卒業論文に向けた研究指導(その1)	卒業研究に向けての授業(3年次前期)。実技・知識・方法論を集大成させたオリジナルな研究(作品・論文)のための、3年次前期段階での指導を行う。修得目標に到達するために、実技と学問を修練する。	実技・知識・方法論を集大成させたオリジナルな研究(作品・論文)を次年度(4年次)に成就させるために、3年次前期段階での能力を修得する。	3	2	1	3	1
S440015	木下 大輔	音楽研究セミナーBⅡ	卒業作品・卒業論文に向けた研究指導(その2)	卒業研究に向けての授業(3年次後期)。実技・知識・方法論を集大成させたオリジナルな研究(作品・論文)のための、3年次前期段階での指導を行う。修得目標に到達するために、実技と学問を修練する。	実技・知識・方法論を集大成させたオリジナルな研究(作品・論文)を次年度(4年次)に成就させるために、3年次後期段階での能力を修得する。	3	2	1	3	1
S440020	石田 修一	音楽研究セミナーCⅠ	音楽を表現する上で必要な解釈や、演奏法を学ぶ。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。ピアノ演奏技能を実践的に学び、表現能力を高める。	ピアノ曲の実技実践を通して、ピアノの演奏、解釈の基本的な事柄を学ぶ。さらに、幅広い視野にたった表現を学ぶ。	3	2	1	1	1
S440020	石野 健二	音楽研究セミナーCⅠ	教育現場での実践的な課題である歌唱時の姿勢、低音・中音・高音の際の呼吸法、声の響きの作り方、頭声発声の方法、母音処理の方法、子音の扱い方、言葉の抑揚の生かし方、レガート唱法とマルカート唱法、詩と音楽のかかわり方等の表現技法の整理と単純化を目指す。また、児童・生徒の主体的な歌唱をいかに引き出すか等を、声楽教師として、また、学校の教師として、模擬授業実践等を通じて学んでゆきます。	この科目は音楽教育専攻専門で専攻専門科目であり、特に卒業研究として声楽を選択する学生、あるいは声楽に関する教育実践力をさらに高めようとする学生のためのものである。	声楽Ⅰ・Ⅱで学んだ歌唱法の基礎、声楽Ⅲ・Ⅳでのより豊かな歌唱表現技法の獲得を通して、将来教員となって指導する際の指導方法の基礎を身につける。音楽研究セミナーCⅠでは小学校、中学校等の教育現場での指導に役立つように、小学生、中学生、高校生を想定した指導法という観点からもう一度学び直す。それを通して声楽の様々な問題を再考し、歌唱表現のあり方、歌唱指導の技術・方法等を深めてゆく。	3	2	1	1	1
S440020	高島 章悟	音楽研究セミナーCⅠ	音楽を表現する上で必要な解釈や、演奏法を学ぶ。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。管・弦・打楽器の演奏技能を実践的に学び、表現能力を高める。	管・弦・打楽器の実技実践を通して、管・弦・打楽器の演奏、解釈の基本的な事柄を学ぶ。さらに、幅広い視野にたった表現を学ぶ。	3	2	1	1	1
S440025	石田 修一	音楽研究セミナーCⅡ	セミナーCⅠを踏まえた上で、さらに音楽を表現する上で必要な解釈や、演奏法を学ぶ。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。ピアノ演奏技能を実践的に学び、表現能力を高める。	近現代のピアノ曲の実技実践を通して、ピアノの演奏、解釈の基本的な事柄を学ぶ。さらに、幅広い視野にたった表現を学ぶ。	3	2	1	2	1

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽教育専攻)

ディプロマポリシー	<p>(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。</p>
-----------	---

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
S440025	石野 健二	音楽研究セミナーC II	声楽の演奏技術は、ホールなどの演奏会場を想定している。したがって、ただ声が出せるといっただけではなく、それが演奏会場でのように響き、どのように音楽として聴衆に伝わってゆくのかといった感性を身につけてゆかなければならない。したがって、呼吸の支え方、声の響かせ方、歌詞の発音、伝えるべき表現内容を、ホール空間の中でいかに演奏として成立させるかということを学んでゆく。	この科目は音楽教育専攻専門で専攻専門科目であり、特に卒業研究として声楽を選択する学生のためのものである。	音楽研究セミナーC Iを受講し、声楽の専門性をさらに実践的に高めようとする学生を対象に、身につけた声楽の基礎技術、さまざまな表現技術を実際にホールでの演奏を前提にさらに深めてゆく。そのため、これまで以上に演奏する曲に対しての解釈を深め、演奏を通して聴衆に何を伝えたいのかということを明確にすることが重要である。また、声が楽器として十分に機能するように、精神面を含めて演奏者に必要な様々な事柄を身につけてゆく。	3	2	1	2	1
S440025	高島 章悟	音楽研究セミナーC II	セミナーC Iを踏まえた上で、さらに音楽を表現する上で必要な解釈や、演奏法を学ぶ。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。管・弦・打楽器演奏技能を実践的に学び、表現能力を高める。	管・弦・打楽器の実技実践を通して、管・弦・打楽器の演奏、解釈の基本的な事柄を学ぶ。さらに、幅広い視野にたった表現を学ぶ。	3	2	1	2	1
	新井 恵美	卒業研究	受講者それぞれが設定したテーマに沿って研究を行う。	音楽教育専攻の専攻専門科目の1つ。受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行う。	受講者それぞれが設定したテーマについて問題意識を持ち、研究を行うことができるようにする。	3	3	2	3	2
	石田 修一	卒業研究	ピアノ演奏法を研究する。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。	今までの蓄積をふまえ、卒業研究発表に向けて曲目を選択し、演奏会での演奏に耐えうるような実技実践を積んでいく。これは、皆さんの音楽に対する自身を深めることとなる。各人が自由に選択した曲目を、人前で演奏することを念頭に練習を積み重ねていく。	3	3	2	3	2
	石野 健二	卒業研究	声楽の演奏技術、表現技術は結局はホール等の空間で音楽として成立するかといった事が重要である。卒業演奏に向けた実践的なトレーニングを行う。	この科目は音楽教育専攻専門で専攻専門科目であり、卒業するために必須のものである。	十分に訓練された声という楽器により、演奏内容が様々な点において的確に表現され、音楽ホールという空間で歌唱が成立することが目標である。	3	3	2	3	2
	木下 大輔	卒業研究	卒業作品・卒業論文作成指導	卒業研究作成(4年次)。修得目標に到達するための研究指導を行う。	実技・知識・方法論を集大成させたオリジナルな研究(作品・論文)を次年度(4年次)に成就させる。	3	3	2	3	2

教育学部・学校教育教員養成課程 カリキュラムマップ (音楽教育専攻)

ディプロマポリシー	(A) 教職・教科に関する知識を修得し、自らの専門分野について深く理解している。 (B) 教育現場における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる。 (C) 発達段階に応じた教育方法と教材・教具を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。 (D) 実践と省察により自らを高めていく課題を設定し、その解決に向けた主体的な取り組みができる。 (E) 教師としての使命感や情熱をもち、教育的愛情をもって子どもに接することができるとともに、多様な人々と共生しながら社会に貢献できる。
-----------	--

時間割コード	担当者氏名	授業科目名	授業の内容	カリキュラムの学習・到達との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号				
						凡例 3 : DP達成のために特に重要な目標 2 : DP達成のために重要な目標 1 : DP達成のために望ましい目標				
						(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	小原 伸一	卒業研究	音楽科教育の様々な問題に関心を持ち、問題解決のための方法論を考え、先行研究の批判的検討を通して自己の理論展開を構築し、論文の形で研究の成果をまとめる。	音楽教育専攻専門科目の開講科目。音楽教育が内包する特殊性(特異性)を考慮しながら、様々な研究課題に対する論考を音楽教育研究の方法と内容をふまえて一つの研究にまとめる能力を修得する。	・音楽教育研究の内容と方法について理解している。 ・研究テーマを設定し研究の成果を卒業論文の形でまとめることができる。 ・研究成果を資料及び提示方法を工夫して発表することができる。	3	3	2	3	2
	高島 章悟	卒業研究	管・弦・打楽器の演奏法を研究する。	音楽教育専攻専門科目の選択科目である。	今までの蓄積をふまえ、卒業研究発表に向けて曲目を選択し、演奏会での演奏に耐えうるような実技実践を積んでいく。これは、皆さんの音楽に対する自身を深めることとなる。各人が自由に選択した曲目を、人前で演奏することを念頭に練習を積み重ねていく。	3	3	2	3	2